

令和元年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づく「実施事業」と「その他事業」の区分により、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

令和元年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和 2 年 3 月に開催を予定していた博物館事業については、入館者と職員の健康及び安全を守るためすべて中止とし、博物館も 3 月 4 日（水）から休館しています。

I 実施事業

公益目的実施計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、特別展・企画展等の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組みました。

また、今年度は開館 60 周年記念事業として、これまで当館がコレクションしてきた貴重な資料・作品の次世代への継承と、さらなる活用の促進を実現するために、收藏・展示環境の整備を中心としたハード面の改修と、收藏品のデータ整備や情報発信など利用者サービスの充実強化を両輪とした事業を実施しました。

なお、改修工事の実施のため、6 月 3 日(月)から 7 月 12 日(金)まで休館しました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めました。

イ 春の企画展

開館 60 周年記念所蔵名品展

「シルクのシンフォニー～^{そめ}染と^{ししゅう}刺繍のかがやき～」

[会 期] 平成 31 年 4 月 27 日(土)～令和元年 6 月 2 日(日)

当館所蔵品から、染めや刺繍による、人間国宝作家作品、掛袱紗、花嫁衣装などの逸品を展示し、絹の美しい世界を堪能することであらためて絹への興味と理解を深めていただく機会としました。

ウ 秋の特別展

開館 60 周年記念

横浜・生糸ものがたりⅡ「白き糸の調べ—かながわの製糸・撚糸—」

[会 期] 令和元年 10 月 12 日(土)～11 月 17 日(日)

明治 20 年代以降、神奈川県内各地に製糸工場が次々と設立された歴史を踏まえ、県内の製糸・撚糸産業について紹介しました。古写真、錦絵などビジュアルな資料や製糸・撚糸道具など展示し、身近な話題が豊富でわかりやすかったと好評でした。

(2) 教育普及事業

ア 「チャレンジ!かいこプログラム」

(ア) 蚕種配布

[期 間] 令和元年 5 月 16 日(木)～5 月 18 日(土)

県内の小学校等を中心に、蚕の卵(蚕種)や人工飼料を有償頒布するとともに、飼育方法や観察の仕方等についてのマニュアルを配布しました。また、配布にあわせて、教員を対象とした講習会を開催しました。

(イ) 「かいこ教室」

[期 間] 令和元年 7 月 27 日(土)～8 月 12 日(月・祝)

「かいこについて詳しく学ぼう!」というテーマのもと、蚕の成長過程・種類、繭や生糸、シルクの特徴等、蚕からシルクまで一貫して学べる展示や体験を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
毎月 1 回程度開催。

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体

見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作りのほか、生きた蚕を観察する勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 令和元年 11 月 30 日(土)～令和 2 年 1 月 13 日(月・祝)

「チャレンジ! かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や幼稚園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演・講習会、真綿からの太糸作り実演、手紬糸作り実演・講習会、スカーフ染め体験、手描友禅色挿し体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 連続講座 60 周年イベント「横浜から世界へ—海を渡った生糸」

[開催日] 第 1 回: 令和 2 年 1 月 18 日(土)、第 2 回: 2 月 15 日(土)
横浜を舞台とした生糸貿易について考察する 3 回連続講座です。全国から横浜へ集まった生糸がどのようにして世界へ渡り、どのように利用されたかを明らかにしました。なお、第 3 回の講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

エ シルクサロン

[開催日] 令和 2 年 1 月 26 日(日)、2 月 9 日(土)

学芸員等の専門分野を踏まえて、蚕やシルクについてのわかりやすい講座を開催しました。なお、3 月 8 日(日)の会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

オ 博物館実習生の受入れ

博物館学を履修している大学生 7 名を、学芸員資格取得のための実習生として受け入れました。

(3) 連携事業

「シルキーウインターフェスティバル」

[期 間] 令和元年 11 月 30 日(土)～令和 2 年 1 月 13 日(月・祝)

特に若い世代を含めた幅広い世代の方々に来館していただき、楽しくシルクの理解と関心を深めることを目的として、関東学院大学、クラ

シック・ヨコハマ等と連携し、「シルキークリスマス」（12月15日（日））等を実施しました。

（4） 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ツイッターの積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

（5） 開館60周年記念事業

改修工事として、収蔵庫及び展示室の一部（3階常設展部分）の空調機更新と設備の改修、海側エントランスの自動ドア改修、常設展示室の映像視聴システムの更新、館内監視カメラシステムの更新を実施しました。

また、利用者サービス事業として、ホームページでの収蔵品紹介、一部英語表記の追加、収蔵資料の修復などを実施しました。

（6） 博物館月別入館者数

博物館月別入館者数

区分 月別		日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
		個人	団体等	計	個人	団体等	計		
平成31年	4月 (22日)	924	186	1,110	251	4	255	1,365	1,263
令和元年	5月 (27日)	2,433	1,332	3,765	134	0	134	3,899	3,695
	6月 (2日)	193	76	269	11	0	11	280	2,515
	7月 (16日)	1,061	451	1,512	65	0	65	1,577	2,336
	8月 (26日)	1,544	424	1,968	134	0	134	2,102	1,888
	9月 (25日)	856	1,025	1,881	179	0	179	2,060	1,896
	10月 (22日)	833	830	1,663	171	0	171	1,834	1,955
	11月 (22日)	1,112	856	1,968	151	68	219	2,187	2,555
	12月 (21日)	1,261	160	1,421	210	5	215	1,636	1,165
令和2年	1月 (23日)	906	93	999	45	1	46	1,045	1,094
	2月 (24日)	508	185	693	28	0	28	721	1,263
	3月 (2日)	25	4	29	3	0	3	32	1,718
合計		11,656	5,622	17,278	1,382	78	1,460	18,738	23,343
月平均		971	469	1,440	115	7	122	1,562	1,945

備考()開館日数

※ 60周年記念事業整備工事のための休館 令和元年6月3日～7月12日
 新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館 令和2年3月4日～3月31日

2 シルク等普及推進事業（継続事業）

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、普及、販売促進活動等の支援に努めました。

(1) シルク等普及活動事業

ア 「シルキーウィンターフェスティバル」（再掲）

特に若い世代を含めた多くの方々にシルクセンターに来館いただき、シルクの魅力等について広く理解していただくため、令和元年11月30日（土）～令和2年1月13日（月・祝）まで開催しました。

イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県の伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

(2) 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

II その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入居率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

ア 部室賃貸等収入

部室賃貸料	383,515千円
諸料金	85,613千円
計	469,128千円

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から60年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、耐震補強工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長期寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

耐震補強工事（1階第5期A-東工区工事）	70,578千円
特別高圧変圧器更新工事	32,940千円
4階部室整備工事	14,773千円
PCB廃棄処理費用（第1回処理分）	6,230千円
幹線改修工事	5,082千円
給排水管診断費用	3,657千円
計	133,260千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場はタイムズ24（株）に運営委託しました。

(1) 立体機械式車庫

車庫使用料金	9,541千円
--------	---------

(2) 平面駐車場

駐車場使用料金	24,833千円
---------	----------